

◆今と昔の地図を比べて町の変化について学習しよう

1 対象児童生徒の実態

学習に積極的に参加し、周囲の友達とかかわり合いながら学習することができる。しかし、分からないことがあると考えることに消極的になったり、皆の前で発表する場面では、自信のなさから緊張が高まったりする。また iPad を使った学習に興味・関心が高いが、友達と交代で使ったり、協力して調べたりすることが難しいことがある。

2 指導目標（児童生徒同士の間関係の形成やコミュニケーションの促進に係る目標）

- ・ iPad の使い方のルールを守ったり、友達と譲り合ったりして使うことができる。
- ・ 友達と iPad を使って調査・編集・考察することで友達と協力して活動ができる。

3 取組の中心となる教科・領域等

社会科

4 使用したアプリ、周辺機器

iPad、AppleTV、インターネット、画像編集アプリ

5 指導の経過及び児童生徒の変容

指導開始時は iPad を使いたい気持ちが先行し、友達と取り合うような場面や、思うように操作ができず苛立ってしまう場面があったが、少しずつ友達と譲り合って使うことができるようになった。また、初めて使うアプリは、教師が手本を見せてから使うことで落ち着いて学習することができた。

本題材では、GoogleMAP を使って、萩市の現在の地図と 1970 年の地図を比較し、街がどのように変容してきたか学習した。これまで紙媒体の地図では関心が低く、学習に集中することが難しい生徒もいたが、友達と協力して楽しみながら学習に参加できていた。生徒たちは新旧地図について協力して調査・編集・考察・発表することができた。

6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

- ・ iPad を使う際のルールを生徒が話し合っで決めることで、みんなで守ろうという意識がうまれた。
- ・ 地図の比較は、地図を画像として保存した後に、Fotor アプリで編集して画面に表示した。1つの画面で地図を比較することができたため、生徒たちは簡単に街の変容を調べることができた。
- ・ AppleTV を使うことで、有線のと看のようにテレビとつながらないストレスがなかった。肢体不自由の生徒は、机の位置のまま発表することができたため、教師の手を借りずに学習に参加できた。